瘦病

癩病

〔塵塚談下〕味噌直し草、又狐のビンザヽラともいふ、江戸巣鴨村雜司ヶ谷邊に多くあり、一兩年已前なるべし、堀田侯の乳母水腫病にて、田舍へ保養に行けるに、右の草を以ておほひとせし味噌汁を、藥になるとも知ずして、數度給けり、右草が藥に成しにや、全快せしとなり、夫よりして、江戸の醫者水腫に奇効有と沙汰し、近比の流行藥となれり、官醫專ら用る事なり、

〔伊呂波字類抄病癆〕瘦ヤス　癆ヤセタリ　臞亦作ㇾ癯　瘵已上同ㇾ瘦　瘦

〔增補下學集上二支體〕瘦病（カセヤマヒ）　顦顇（カジケタリ）

〔倭訓栞前編三十四〕やつる、　憔悴をいふ、又臞字をよめり、瘦疲の義成べし、神代紀に、襤褸をやつれとよめり、敝綴（ヤレツヾレ）の義成べし、古今集に君ゑのぶ草にやつるゝ古里ともよめり、

〔日本書紀二神代〕一曰、〇中略時彦火火出見尊、既歸來、一遵神敎、依而行之、其後火酢芹命、日以襤褸（ヤツレテ）、而憂之曰、吾已貧矣、乃歸伏於弟、

〔倭名類聚抄三病〕癩　說文云、癩音例、阿之岐夜萬比、惡疾也、

〔箋注倭名類聚抄二病〕所ㇾ引广部文、昌平本、曲直瀨本、癩作ㇾ癘、按癘字無所ㇾ見、蓋俗字、俗又或作ㇾ癩、見ㇾ毛詩正義、卽後世所ㇾ謂癩病也、病源候論云、癩病是賊風入ニ百脈ㇾ傷ニ五臟ㇾ、連ニ注骨髓ㇾ、俱傷而發ニ於外ㇾ、使ニ眉睫墮落、皮肉生瘡、筋爛節斷、語聲嘶破ㇾ、

癩病

〔下學集上支體〕癩（アシキヤマヒ）

〔增補下學集上二支體〕癩病（ライビヤウ）

〔醫心方三〕治ニ中風癩病ㇾ方第廿

病源論云、凡癩病、皆是惡風及犯ニ觸忌害ㇾ得之、初覺ニ皮膚不仁ㇾ、或淫々苦癢如ニ虫行ㇾ、或眼前見ㇾ物如ニ垂絲ㇾ、或隱瘾輒赤黑治之、斷ニ米穀肴鮭、專食ニ胡麻松朮最善ㇾ、然癩名不ㇾ一、木癩、火癩、金癩、土癩、水癩、蟨蜂癩、雨癩、疥癩、蚓酒癩也、又有ニ烏癩、白癩ㇾ、論ニ諸癩形狀ㇾ、在ニ本書ㇾ、依ㇾ繁不ㇾ載、